



### 正解の見えない問題に立ち向かうために

副校長 根本 祐介

1月20日（土）に開催した道徳授業地区公開講座では、大勢の皆様にご参観いただき誠にありがとうございました。アンケートには「いろいろな意見が出て面白かった」「それぞれの立場で気持ちを考えやすい題材だった」「友達と相談して議論を深めていた」などの御感想をいただきました。

子供たちは学校で様々な教科を学んでいますが、正解が決まっているものばかりではありません。算数科などの学習は、方法は異なっても同じ答えにたどり着きます。例えば山登りのように、登山ルートは何通りもありますが、ゴールは同じです。この場合は、○や×で評価ができます。一方で、今回の道徳などの学習は、同じルートや場所においても、本人の目指すゴールは異なります。同じ店で食事をするとき、自分はカレーで相手はハンバーグを選んだとしても、どちらも○になるでしょう。また、総合的な学習の時間では、何が問題で、どこにゴールがあるのかを話し合っただけでは模索していきませんが、様々な考えが出るのに、衝突してまとまらないことも起きます。

子供たちは、元来競争が好きで、正解・不正解にこだわる傾向があります。そのため、前者のタイプの学習がやりやすいと考えるようで、「先生、これであっていますか？」と聞いてくるのが度々あります。しかし、社会に出ると、○や×では決められない問題が山積みです。そのような時は話し合っただけでは合意形成をしていくことになりませんが、これがまだ子供たちには難しいようです。その原因は、子供たちが「自分の視点」に固執しているからではないでしょうか。自分の意見を通すことだけが目的になると、お互いに衝突して合意に至らないことがあります。我々教員が仲裁に入る時には、子供たちにはできるだけ多くの視点で考えさせるように心掛けています。自分の視点の他に、相手の視点や第三者の視点で考えていくことが大切です。そして、お互いの考えや思いを尊重して受け入れることで、どちらも納得するゴールを見付けていくことができるようになります。物事を多面的に見て判断するという考え方は、みんなで力を合わせて成し遂げる「協働的な学習」にはなくてはならないものだと考えます。

将来、子供たちは決められた正解のない問題に溢れた社会で生き抜くことになるでしょう。仲間と力を合わせて粘り強く解決を目指す大人になるための基礎を築きあげるのが小学校の役目だと思います。お互いに敬意をもって話し合い、受容して合意形成に至る力が伸びるように、芝小学校一丸となって授業づくりをしていきます。

#### 2月生活目標「正しい言葉遣いをしよう」

##### 「言葉の大切さ」

言葉には様々な力があります。例えば、自分の気持ちを伝える力、人を元気にさせる力など多岐にわたります。しかし、その使い方を誤れば、自分も、周りの人も傷付き、苦しめられてしまいます。それほど、言葉のもつ力はとても強いです。

学校では、多くの人と一緒に過ごしています。言葉の受け取り方も人それぞれです。どんな人でも気持ちよく過ごすことができるように相手を思いやった言動をしていく必要があります。正しい言葉遣いや行動ができるよう、引き続き指導してまいります。

(生活指導部 荒井 かりん)

#### 学びの部屋

～4年生 「10才を祝う会」に向けて～

4年生は、2月3日（土）に行われる「10才を祝う会」に向けて準備を進めています。冬休みには、自分が生まれてから10年間のことを家の人にインタビューして、自分が生まれてきたときの様子や小さい頃のエピソードなどを調べました。そして、無事に生まれてきたときの家族の喜びや、これまで愛情深く育てられてきたことを実感しました。

当日は、これまで支えてくれた家族への感謝の気持ちを表すとともに、将来に向けてどんな大人になりたいかを発表する場にしたいと考えています。

(4年生担任 三山 明子)